

令和元年度愛知県特定鳥獣保護管理検討会（第3回）

日時：令和2年3月18日（水）

場所：愛知県自治センター 4階 大会議室

（1）令和元年度特定鳥獣保護管理検討会（第2回）における意見と対応等について

（委員）

豊田市内でカモシカの被害があるとのことだが、捕獲を検討する際には、自動撮影カメラ等を使って、加害個体かどうかの具体的な証拠を得る必要がある。

（委員）

カモシカの錯誤捕獲については、対応方針を明確にして適正に対処する必要がある。

（2）令和2年度市町村実施計画（イノシシ）（案）について

（委員）

県全体として、イノシシの個体数をどう管理していきたいかを示すべき。

（事務局）

県全体では個体数を半減、渥美半島では根絶を目指している。なお、CSFの影響でイノシシの個体数自体が減少しているとの情報もある。

（委員）

捕獲は努力量で評価すべき。また、CSFに対する対策とその効果について、ASFを見据えて総括するための具体的なデータを集めること。

（3）令和2年度市町村実施計画（ニホンザル）（案）について

（委員）

ニホンザルに限らず、被害額の減少については、捕獲の効果なのか、耕作放棄によるものなのかの評価が難しい。その分析や考え方を教えてほしい。

（事務局）

防護柵などの対策を進めている。

（委員）

ニホンザルの特定計画策定のガイドラインでは、群れ単位の管理を行うことになっている。県は、群れごとの管理ができているかについて、市町村ごとの状況を把握する必要がある。

（事務局）

岡崎市、豊川市では群れごとの管理を実施しているが、できていない市町村が多い。群

れについては、来年度、特定計画策定のための調査を実施する。

(委員)

特別な調査でなくとも、市町村ごとの状況を取りまとめるべきである。

(委員)

ニホンザルは、被害を与えている群れはあまり多くないので、これをどう管理するかが、計画としては重要である。

(4) 令和2年度市町村実施計画(ニホンジカ)(案)について

(委員)

豊田市の捕獲予定頭数が増加している根拠は何か。

(事務局)

有害鳥獣捕獲について、狩猟期も実施するほか、銃猟やくくり罠も使えるようにする予定である。

(委員)

従来の捕獲では、ニホンジカの個体数を減少させるには足りなかったことがわかった。本来は5,000頭ではなく、もっと多く捕獲すべきである。(県猟友会の銃猟登録者数が減少していることを受け)これから捕獲数を増やしていくには、担い手の確保が重要であり、最初に捕獲数を1万頭などにして、個体数を減らしておく方がよかった。今後、将来的に管理が厳しくなってくる。

(5) 令和元年度指定管理鳥獣捕獲等事業実施結果(イノシシ、ニホンジカ)について

(委員)

捕獲が予定通り進まなかったイノシシについては、何が問題なのかについて、きちんと分析すること。

(6) 令和2年度指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画(イノシシ、ニホンジカ)(案)について

(意見なし)